

カーボディデザインを一新し、赤い雄牛の力強い姿も印象的な「#37 KeePer TOM'S LC500」。その勇姿に違わぬ力強い走りを見せた。開幕戦をデビューウィン、第2戦を3位入賞の快挙。苦渋を味わった昨年の経験を糧に、シリーズ優勝を目指す!!



華麗なデビューWIN&表彰台でシリーズランキング1位をKeep!



第2戦 富士スピードウェイ [FUJI GT 500km RACE] 予選 5/3(水・祝) 決勝 5/4(木・祝)

第2戦も3位入賞で表彰台獲得!

ウエイトハンデの差が重くのしかかる
110周のレース火蓋が切られて落とした。スタートラップに前を行く19号車をパスし早々に6位に順位を上げると、勢いそのままに前の6号車を猛追開始。9周目の最終セクターで6号車をパスし5位に順位を上げるも、20周目に抜き返され順位を6位に戻してしまふ、やはり同じLEXUS同士では



ウエイトハンデの影響で予選7位発進
立夏を翌日に控えまさしく初夏の陽気のようなすばらしい天候に恵まれたこの静岡県の富士スピードウェイ、2017年スーパーGT第2戦「富士GT500kmレース」(110周)が行われた。この時期のSGTレースとして過去最高の来場者数である2日間延べ9万2100人の大観衆が来場した。公式予選では、ウエイトハンデ(40kg)の影響もあり7位となったが、GT500クラス全15台の中でもっともウエイトハンデを課せられてこの順位は上々の順位といっても過言ではない。



ウエイトハンデの差が如実に出てしまふ。
35周目にルーティーンのピットイン、ドライバーを平川亮に代わり再度コースイン。ピットアウト時にエンジン始動に若干のタイムロスがあり7位にてコースに復帰する。しかし、前を行く100号車を43周目に抜き6位に順位を戻すと、53周目にはさらに23号車をパスして5位に、その後36号車のベナルティにより4位に上がると、続く64周目の第3セクターで39号車をパス、表彰台圏内の3位まで順位を上げる。
74周目に2回目のルーティーンのピットインでドライバーを再びニック・キャシディへ交代し再度コースイン、110周目のゴールを目指す。前を行く2位の車両を猛追するも、惜しくも届かず。
しかし、開幕戦優勝のウエイトハンディーを課せられながら見事3位表彰台を獲得、シリーズランキングも1位をキープし500kmのレースを終えた。

2017年度 スーパーGT スケジュール

※開催日程は他の世界選手権レースの開催予定が変更された場合、変更されることもあります

第4戦 スポーツランドSUGO(宮城県)	公式予選 7/22(土) 決勝 7/23(日)
第5戦 富士スピードウェイ(静岡県)	公式予選 8/ 5(土) 決勝 8/ 6(日)
第6戦 鈴鹿サーキット(三重県)	公式予選 8/26(土) 決勝 8/27(日)
第7戦 チャーン・インターナショナル・サーキット(タイ)	公式予選 10/ 7(土) 決勝 10/ 8(日)
最終戦 ツインリンクもてぎ(栃木県)	公式予選 11/11(土) 決勝 11/12(日)



第1戦 岡山国際サーキット [OKAYAMA GT 300km RACE] 予選 4/8(土) 決勝 4/9(日)

平川&キャシディコンビでデビューWIN!!

波乱の幕開け NSX勢にトラブル発生!
満開の桜の歓迎を受けた2017年SUPER GT開幕戦GT300kmレースが、岡山国際サーキットで行われた。公式予選では、天候の影響や赤旗による予選中断もあり、2列目の3番手グリッドからの決勝スタートとなった。
今年も岡山県警交通機動隊の白バイ先導でのパレードラップを終え、フォーメーションラップとなる予定であったが、ポールポジションを含めた4台のNSX勢にトラブルが発生し、スタートができないというアクシデントが発生、波乱の幕開けとなる。
完全にマシンコントロールでニック選手がトップへ出る!

結果的に2番手スタートとなった37号車「KeePer TOM'S LC500」はスタートドライバーのニック・キャシディ選手がまだタイヤの温まっていない2周目に勝負に出た。バックストレートエンドでトップのマシンのイン側にブレーキをロックさせ、白煙を上げながら飛び込み、完璧なマシンコントロールでトップに立つと、その後も快調なペースで後続を引き離していく。しかし、他車のクラッシュなどによりセイフティーカーが導入され、笑っていたギャップがなくなりました。
36周目にルーティーンのピットインを順調に終え、ドライバーを平川亮選手に交代、トップのまま再度コースインしゴールを目指す。

スタート時25℃あった気温が時間とともに急激に下がりがり、レース中盤には10℃台後半まで下がり、レース終盤には10℃台前半まで下がってしまった。すると37号車「KeePer TOM'S LC500」に比べ柔らかめのタイヤをチョイスしていた2位のライバルが、固めのタイヤでペースが上がらないマシンに徐々に迫ってきた。レース終盤の20周は2位のライバルの手に汗握る壮絶なトップ争いが続いた。

クレバーな走りの平川選手がトップを死守!
しかし、ここ岡山国際サーキットで育ったといっても過言ではない広島県出身の平川亮選手、抜群のライン取りとGT300クラスをうまく利用するクレバーな走りでトップを死守。LEXUS LC500としてデビューWINをかざった。
37号車「KeePer TOM'S LC500」は2014年GLEXUS RC FのデビューWINと2車種連続で新型マシンデビューWINを獲得した。

